

本時の活動について（【資料4-1】のレッスン10）

平成24年2月17日(金)

授業者 黒川 智通

本時の主活動（発表活動）の目的と本時までの準備について

英語を書く力を育てる活動としての「サマリー（summary：要約）ライティング」と、「グループワークによる発表（presentation）」を組み合わせたものである。サマリーに加え、新たな追加の話（an additional story）をグループで創らせ、寸劇（スキット）も交えた自由な発表形態をとらせることで、よりクリエイティブな言語活動を展開できるよう工夫した。実際に準備段階では、最初は消極的であったが、それぞれが持ち寄ったアイデアと英文をグループ内で数多く吟味するにつれて、英語が積極的に飛び交う様子が見られた。英文に関する質問も積極的で、英語を書き、話すことに躊躇せず、「よりよい発表をしたい」という気持ちが伝わってきた。

※グループ分けについて：この活動は、教科書に書いてある話題から、まず各自テーマを設定し（Soseki's ○○）、サマリーを書くところから始まった。サマリーを全員提出し、私とALTでチェックをした後、返却時に、グループを発表した。同じテーマ、または似たようなテーマを選んだ者同士を集め、四つのグループに分けた。

本時で発表するグループとその発表内容

グループ		タイトル	内容
1	要約	Soseki's Character	漱石はもともと完璧主義者であるが故に、自身の英語力について過小評価しており・・・
	創作話	Perfectionist's Love	漱石とケイトは妻を喜ばせるために、妻に内緒でロンドンでのサブライズを企画していたが・・・
2	要約	Soseki's English	漱石は芝居を見たり、家庭教師の下で勉強していたので英語力もついていたのだが・・・
	創作話	? (secret)	実は漱石のことを嫌っていた家庭教師は、ある日漱石をお茶に誘い、漱石に毒入りのお茶を・・・

※二つのグループのサマリーは同じような内容になっていますが、視点は異なります。ちなみに月曜日に発表予定のグループのテーマは「Soseki's boarding houses（漱石の下宿）」と「Soseki's mental problem（漱石の精神疾患）」です。

本時の他の活動の目的と本時までの準備について

- (1) **ビートルズの歌**：今年度10曲目。この曲を歌うのは本時で6回目。毎時授業の最後の3分間で実施。聴く力の向上だけでなく、自己表現能力の育成も図る。月に1曲ペース。
- (2) **マイホームタウン**：県教委作成の冊子を使った授業冒頭のアクティビティ。1月より実施。来週インタビューテストを実施予定。

参考 [レッスン10の概要]

夏目漱石のイギリス留学時代の話。すでに地下鉄網を備えた「進んだ街」ロンドンで、彼は古本を買ったり、劇場に足を運んだりして楽しんだ。しかし、授業料も高く授業に意味を見いだせなかった彼は、大学をやめてしまう。芝居を理解し、英文学の個人授業も受けていた彼の英語力は見事なものであったはずだが、「完璧主義者」だった彼は、ロンドンなまりの英語がうまく理解できず、自身の英語力について否定的だった。特に「聞く力と話す力が十分でない」と感じていたようだ。自身の英語力だけでなく、「日本人の聞く・話す力」についても不十分であると指摘している。2年間の滞在中、彼は5つの下宿を転々としたが、中でも、3番目の下宿先の女家主の妹のケイトや、4番目の下宿に移ってきた日本人の若い科学者池田菊苗との交流が彼を支えた。池田氏に触発され、自ら5番目の下宿を探し、ある年配の女性が営む下宿で勉強を続けたが、彼の心はさまざまなことに悩まされていた。「文学とは何か」ということを問い続け、やがて自室に引きこもり、独りで本を読んだり思索にふけっているうちに、精神を病んでしまった。しかし、家主の薦めでサイクリングを楽しみ、なんとか回復し、彼は帰国することになる。ロンドンでの2年間を「人生でもっとも不幸な2年間」と振り返っている。